

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成26年2月6日(2014.2.6)

【公開番号】特開2012-213454(P2012-213454A)

【公開日】平成24年11月8日(2012.11.8)

【年通号数】公開・登録公報2012-046

【出願番号】特願2011-79391(P2011-79391)

【国際特許分類】

A 6 1 M 16/10 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 16/10 Z

A 6 1 M 16/10 C

【手続補正書】

【提出日】平成25年12月10日(2013.12.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

上部にボトル口部を有し液体が貯留されるボトルと、前記ボトル口部に接続可能なヒータ装置と、前記ヒータ装置に接続可能なネブライザアダプタとを備えるネブライザシステムであって、

前記ボトルは、内部に貯留される液体に浸漬される浸漬管を備え、

前記浸漬管の上端部は、前記ボトル口部を介して前記ボトルの内外を連通する空隙部を設けた状態で、前記ボトル口部の周壁の内側に配置されており、

前記ネブライザアダプタは、ガスを噴射する噴射口を有するノズル部材と、前記噴射口に対応する位置に配置され前記噴射口から噴射されたガスの気流によって、前記浸漬管及び前記ヒータ装置を介して前記ボトル内の液体を吸引すると共に吸引した液体を微細なエアロゾルとするエアロゾル形成部材とを備えており、

前記ヒータ装置は、一端部が前記浸漬管の上端部に接続すると共に他端部が前記エアロゾル形成部材に接続する導水管と、前記導水管を加熱する加熱部と、一方端が前記空隙部に対向配置され、他方端を介して前記ネブライザアダプタにおいてエアロゾル化されなかった液体を前記ボトル内に還流するドレン管とを内部に備えているネブライザシステム。

【請求項 2】

前記ヒータ装置は、前記ネブライザアダプタにおいてエアロゾル化されなかった液体を貯留する受液部を備えており、前記ドレン管の他方端は、前記受液部に接続する請求項 1 に記載のネブライザシステム。

【請求項 3】

前記受液部は、前記導水管の他端部側に設けられており、底部と、前記底部から立設する側壁部とを備えている請求項 1 又は 2 に記載のネブライザシステム。

【請求項 4】

前記導水管の他端部は、前記受液部の底部に貫挿されており、

前記側壁部は、前記底部の外周縁から立設している請求項 3 に記載のネブライザシステム。

【請求項 5】

前記ヒータ装置は、筐体と、前記筐体から突出し前記ネブライザアダプタが接続する筒

状の接続部とを備えており、

前記ネブライザアダプタは、前記接続部の端面に密着可能な密着面を有するリング状部材を備えている請求項 2 から 4 のいずれかに記載のネブライザシステム。

【請求項 6】

前記導水管及び前記ドレン管は、直線状に形成されている請求項 1 から 5 のいずれかに記載のネブライザシステム。

【請求項 7】

前記ヒータ装置の一側面と、前記ボトルの一側面とは、略面一となるように構成されている請求項 1 から 6 のいずれかに記載のネブライザシステム。

【請求項 8】

上部にボトル口部を有し液体が貯留されるボトルと、前記ボトル内の液体を吸引すると共に吸引した液体を微細なエアロゾルとするネブライザアダプタとの間に配設されるネブライザシステム用のヒータ装置であって、

前記ボトルが有する浸漬管の端部に一端部が接続すると共に他端部が前記ネブライザアダプタが有するパイプ状のエアロゾル形成部材に接続する導水管と、

前記導水管を加熱する加熱部と、

一方端が前記ボトル口部内を向くように配置され、他方端が前記ネブライザアダプタ内を向くように配置され、前記ネブライザアダプタにおいてエアロゾル化されなかった液体を前記ボトル内に還流するドレン管と、を内部に備えているヒータ装置。